



倫理的な消費が
社会を変えていく

あなたは食品を購入する時、どのような基準で選択していますか。鮮度や価格、産地、栄養価など基準は多岐に渡りますが、昨今の物価高騰の影響から価格を一つの尺度として購入する人も多いのではないのでしょうか。

一方で、消費者が社会や環境に配慮した商品などを優先して購入する「エシカル（倫理的）消費」が近年注目されています。これは、消費者が買い物やサービスの利用を通じて、社会が抱える課題の解決に寄与するもの。例えば、自分が住む地域で作られた農産物を購入

令和5年農業産出額の内訳

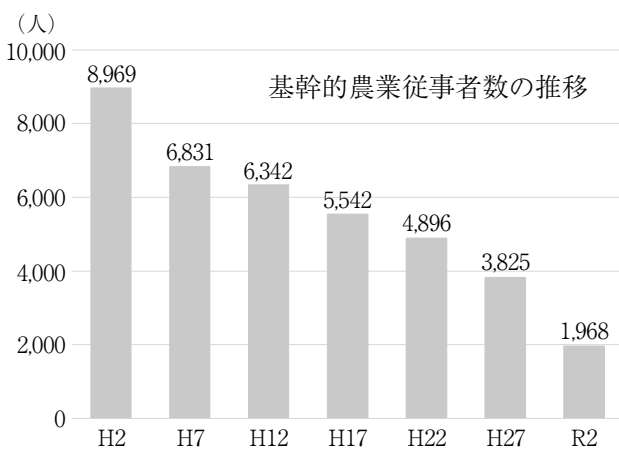
	品目	農業産出額
1	肉用牛	175.3
2	豚	110.4
3	鶏	52.1
4	野菜	49.1
5	花き	27.8
6	いも類	25.7
7	乳用牛	12.7
8	米	9.3
9	工芸農作物	4.7
10	加工農産物	1.6

（単位：1億円）

令和5年農業産出額と全国順位

	市町村	農業産出額
1	都城市（宮崎県）	981.0
2	田原市（愛知県）	891.1
3	銚田市（茨城県）	676.2
4	別海町（北海道）	639.3
5	旭市（千葉県）	559.4
6	浜松市（静岡県）	545.6
7	弘前市（青森県）	532.8
8	新潟市（新潟県）	517.6
9	熊本市（熊本県）	505.7
10	那須塩原市（栃木県）	504.0
11	曾於市（鹿児島県）	472.3
12	鹿屋市（鹿児島県）	469.5

出典・農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」



出典・農林業センサス

他人事ではない
農家の減少と高齢化

主に自営農業に仕事として従事している農業者数を示す「基幹的農業従事者数」は、平成2年からの約30年間で4分の1以下に減少し、平成27年から令和2年の5年間は半減しています。こうした農家の減少は、少子高齢化や後継者不足、労働条件の厳しさなどに端を発していると考えられます。特に近年は、物価高騰などにより経費が上がり続けており、初期費用が大きい農業に新規参入するこ



とが難しい状況となっています。こうした背景から本市では「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン」を策定し、持続的な農業の発展を図るために、担い手の確保・育成や農地等の生産基盤の整備、環境保全型農業の取り組みの一つである有機農業などに対して支援を行っています。

食事は私たちが生きていく上で必要不可欠なこと。しかし、それを支えている農家は、今厳しい状況に立たされているのです。そして、私たちにとってそれは決して他人事ではありません。



[新規就農者] New farmers 農で生きていく。



私たちの食卓へ、安心して食べられる食材を届けてくれる農家。しかし、農家の数は年々減少を続けており、担い手不足が大きな課題となっています。農業人口の減少は、私たちの食や暮らしに直接影響を与えるため、全ての人に大きく関わる問題です。

そこで今回は、新規就農者や就農に携わる人たちを取材。そこから見えてきた農業の実情をお伝えします。

市農政課 TEL 0994-31-1117
市畜産課 TEL 0994-31-1118